

北海道雪氷桜プロジェクト実行委が 北海道マラソンランナーをびまわりで応援

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会(委員長・越智文雄)あかりみらい社長)は8月25日の北海道マラソンで、平岸町内会有志の協力を得てコース沿道での「花応援」を行った。

東京五輪の男女マラソンで、沿道のマンションのベランダや私有地敷地



▲地域の住民らが平岸街道でランナーを「花応援」。

で花を振った応援が最初。4回目の今回、当別町の農家から提供を受けたひまわりは昨年から増やし500本を用意した。市民ランナーは手を振りながら「きれい!」「ありがとう」と声をかけていた。中には、立ち止まって写真を撮ったり、「1本ください」とひまわり

もらいました」

北海道マラソンの常連ランナーがこう話すのは、ランナー公式応援団の「AJO北海道☆朝チア部」だ。このチア応援団は、さまざまなシーンでの応援文化を広げることで、人や社会を元気にし、幸福度を上げることを目的に

をキャップに挟んで走り続ける人もいた。平岸ハイヤー本社前の恒例応援として覚えているランナ

北海道支部 設立の全日本応援協会 応援文化を広げ元気に! 幸せに!

「ゴールまで1キロを切った道庁前。チアの応援でラストスパートの元気をもらいました」

も多かったようだ。「来年は、他の市町村からもひまわりの寄贈を受けて数千本規模の応援ベルト地帯を作り、東京五輪のレガシーといえるこの市民応援を、北海道マラソンの風物詩として定着させたい」(実行委)



▲どんな時も「本気で応援」。

チア」という活動を15年間行っており、これまで東京を中心に活動してきたが、今年、北海道支部を結成した。北海道マラソンの応援は「応援ゲスト」として出演した昨年に続く。前回は東京のメンバーが駆けつけたが、今回は道産子でチームをつくった。代表理事の朝妻久実さんは名寄市生まれ、旭川市育ち。旭川観光大使を務める。著書に『誰かをちよつと応援するだけでしあわせになる!』(アスコム刊)がある。